

地域資料としての写真絵葉書の利活用 —MLA 連携に着目して—

太田 帆南

裏面に写真のある郵便絵葉書で現在観光絵葉書が主流となっている写真絵葉書は、地域資料としての価値、メディアとしての価値を持ち合わせており、地域の住民がその地域について知るためのひとつのメディアとして評価できると考えられる。しかし、図書館・文書館・博物館において、写真絵葉書の所蔵状況に偏りがあることが指摘されている。

そこで本研究では、MLA における写真絵葉書の評価及び収集・利活用の現状を把握し、MLA 連携による新たな写真絵葉書の利活用のあり方について考察する。また、地域の住民がその地域について理解を深めるため写真絵葉書は今後どのように活用されるべきか考察することを目的とする。

調査方法として文献調査とアンケート調査を行う。文献調査では、MLA それぞれにおける写真絵葉書の評価について調査した。アンケート調査では写真絵葉書の収集・利活用の現状や課題、MLA 連携の実態を把握するため、都道府県立図書館 47 館・文書館 29 館・博物館 44 館の計 120 館を対象に質問紙を郵送し、結果の分析を行った。

文献調査の結果、MLA それぞれで写真絵葉書に対し重視する価値が異なることが明らかとなった。また、アンケート調査の結果、写真絵葉書を収集している館の大多数が寄贈による収集という形をとっており、購入という積極的な収集方法に比べ消極的なこの収集方法が偏りを生み出していると考えられる。また、利活用にあたって、メタデータの特定が難しい、労力がかかる等、多くの課題があることが明らかになった。MLA 連携に対する各館の認識については、連携が関心・利用の向上につながるという意識は持っているものの実際に連携を図っていく意思は無いとする館が 2 割近く存在し、写真絵葉書に限った連携は難しいという現状が浮き彫りになった。そのため、今後 MLA 連携において写真絵葉書を含めた地域資料全体の活用を図っていくことが求められると考える。

MLA ではそれぞれ重視する価値が異なることから、三者が連携し、それぞれの視点からの写真絵葉書の情報を共有することは効果的であると考えられる。これによって地域の住民がより多角的な視点から写真絵葉書を見ることが可能になり、地域資料の一つとしての利用の向上につながると思う。現在、写真絵葉書の収集の偏りや利活用における館単体での限界から、すべての館が十分に写真絵葉書を活用できているとは言い難い。そこで、MLA 連携を通じた①写真絵葉書の共同利用、②様々な活用方法の情報共有、③MLA 各視点からの情報の集約を行うことにより、各館の負担軽減につながり、利活用の活発化が見込まれると考える。画像資料のメタデータ等を容易に特定するための手法や、データ共有のための MLA 共通のフォーマットの確立が期待される。

(指導教員 白井哲哉)